2022年3月7日

関西中央高等学校
2021（令和3）年度　学校評価報告書

関西中央高等学校
学校評価委員会

1　本校の概要

（1）沿革

昭和39（1964）年4月に、桜井女子高等学校として現在の地（奈良県桜井市桜井502番地）に開校し、58年を迎えた。平成11（1999）年4月に、関西中央高等学校に校名変更を行い、特進コースを男女共学（平成15(2003)年全コースで共学）とした。開校以来、課程、コース等の変遷を経て、平成29（2017）年4月より、普通科特別進学コース・進学コースの2コースとなった。

（2）基本理念、基本方針

基本理念　　建学の精神「徳をのばす、知をみがく、美をつくる」に基づく人格形成
基本方針　　「学ぶ力」をのばし、「生きる力」をみがく

（3）令和3年度の重点目標について

①学力向上の教育体制の整備
（1）生徒の進路を保障する教育プログラムを継続・推進する。
（2）教育プログラムを効果的に展開する教育体制を持する。

②学ぶ力・生きる力を育む教育体制の整備
（1）教育の特色や実績を効果的に保護者に伝える方法を提案する。
（2）教育環境の効率的、効果的整備と運用を計画的に図る。

③生徒一人ひとりの希望進路を保障（進学目標）
〈特別進学コース〉難関大学進学を目指す学力向上への3カ年の教育体制を構築する。
〈進学コース〉大学進学を目指すための基礎学力ををつけ、学力向上への3カ年の教育体制を構築。

2 今年度の重点目標における取組計画、自己評価、改善方策

自己評価の目安　S:大幅達成　A:達成　B:未達成　C:大幅未達成

（1） 重点目標① 学力向上の教育体制の整備

取組計画	自己評価	取組状況・達成状況	今後の改善方策
生徒の進路を保障する教育プログラムを継続・推進する。	B	本校では一人ひとりの生徒と向き合い、学期ごとの三者懇談をはじめとして、個人面談や進路説明会を実施し進路や仕事に対する理解を深めている。授業の中では探究の時間を設け、自分が就きたい仕事にはどうすればなれるのか、何が必要なのかを考えさせています。3年生だけでなく、1・2年生のうちから各大学・専門学校のオープンキャンパスに積極的に参加するように指導しています。特別進学コースでは、大学受験力向上の為に「関中塾」「校内予備校」のカリキュラムを充実し、進学コースにおいては学習支援「知正塾」や資格受験補助、受験科目のサポートとして「知正の杜」を運用している。さらに、自宅学習ツールとして、全コースの生徒にスタディサプリを導入し今年度からは大学入試で重要視されている「英語」の4技能が習得できるスタディサプリEnglishを導入し、さらなる学力向上を図っています。	学習環境のハード面の構築は進み、積極的に勉強する生徒が増えてきている。その環境を利用して、生徒が主体的に学びたいと思う取り組みを3カ年の教育体制に反映し、修正しながら整備する。かつ、評価部会を設け、情報共有を密に行い学校全体の取り組みとして教員一丸となってのサポートを引き続き行う。
教育プログラムを効果的に展開する教育体制を維持する。	A	個々の生徒の学力定着状況を日常的に把握する為に朝学（主要3教科の確認テスト）を実施し、一定の得点を得られない場合には当日に再テストを行い基礎力向上に努める。教員間で指導の連携を図り、低学力生徒や不登校生徒に対しても個別指導を強化し、かつ、試験前には特別補習を行い、勉強面でのサポートを教員一丸となって取り組んでいる。	

（2） 重点目標② 学ぶ力・生きる力を育む教育体制の整備

取組計画	自己評価	取組状況・達成状況	今後の改善方策
教育の特色や実績を効果的に保護者に伝える方法を提案し本校教育の可視化を実現する。	B	スタディサプリの連絡機能を積極的に使い、課題配信や保護者への連絡に活用している。保護者アンケート結果にもHPやSNSで学校行事の発信について要望が多いことから今年度は積極的に本校HPやSNSで発信を行い、掲載数については昨年に比べ133%増になっている。文書においても、学校の取組みを学年通信で掲載し、学習面のサポートについては、目的・講座名を記した案内を配布している。	HPをはじめ情報を発信するツールを積極的に活用し、本校の魅力や実績を継続的に積極的に伝えていくこととする。
教育環境の効率的、効果的整備と運用を図る。研究授業・職員研修等を積極的に行い、授業改善を推進する。	B	教育環境の効率的、効果的整備の一つとしてICT機器の整備を行い、ICT活用を前提とした授業設計の見直しや、教員のICT活用指導力を向上する研究授業・研修を行っている。既に別室登校の生徒に対してリモート授業を始めており、対応できる教員が増えリモート授業やICT機器を活用した教育に対する教員の意識変化が表れ始めている。	学習指導要領では、ICT活用は情報活用能力を育成するためと、教科の学習目標を達成するための2つに大きく分けられている。学習指導でのICT活用による効果を検証する為に、研究授業・研修等を積極的に行い授業改善に取り組んでいく。

（3） 重点目標③ 生徒一人ひとりの希望進路を保障（進学目標）

取組計画	自己評価	取組状況・達成状況	今後の改善方策
〈特別進学コース〉 難関大学進学を目指す学力向上への3カ年の教育体制を構築する。 〈進学コース〉 大学進学を目指すための基礎学力ををつけ、学力向上への3カ年の教育体制を構築。	B	重点目標の学力向上の教育体制の整備や学ぶ力・生きる力を育む教育体制の整備は進路目標と連動している。進路指導については、保護者アンケートにおいて一定の評価を得ているとから学力向上に向け体制を整ているが、顕著な成果が見えていないことから、可視化をし共通の課題として対応している最中である。	進路指導時には、将来のことを考え、何を学べるのか伝え一人ひとりにあった進路指導を3年間を通して担任と進路指導部が連携できる体制を引き続き継続し進路保障体制の充実を教員一丸となって取り組んでいく。

３ アンケートの実施状況について

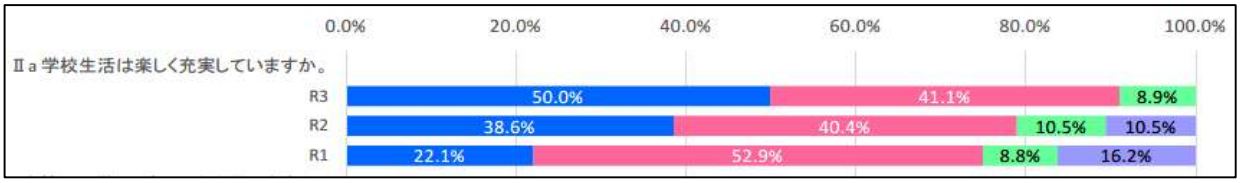
次年度からの生徒募集停止の保護者説明会を6月に実施してから1ヶ月が経過し、生徒・保護者の状況を把握する為、生徒・保護者アンケートを7月に実施した。双方の結果及び、経年比較を以下に示すこととする。

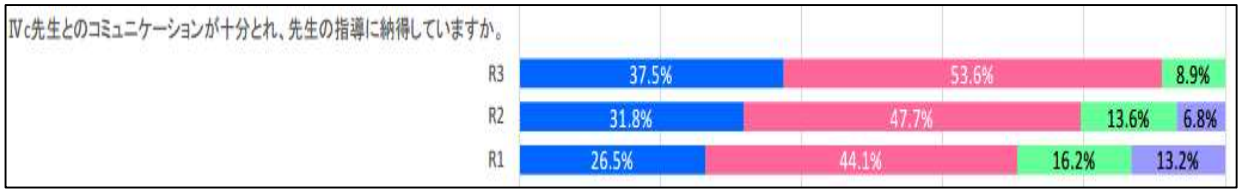
（1）学校生活・教員との連携について

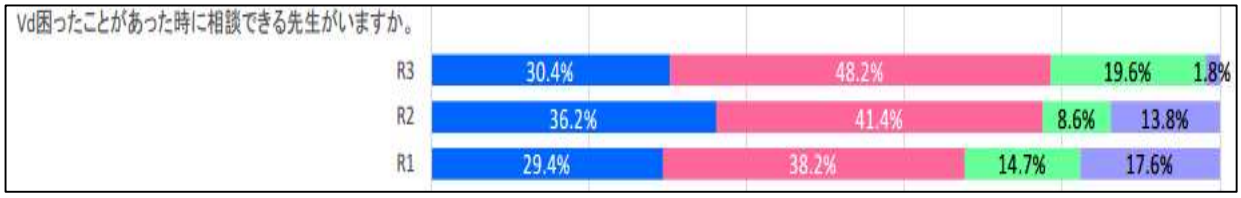
生徒募集停止の案内から一番心配していた学校生活に対する充実度については、1年生は9割が満足し、経年比較を行った2・3年生においても満足度は向上している。どの学年においても先生とのコミュニケーションに対する満足度や困ったことがあった時に相談できる先生がいますかとの問いに対しても評価が高いことから教員が一丸となってこの問題に対応し、卒業年度まで教育の質を下げない、最後まで責任を持って対応することが伝わっていると推察される。ただ、充実感を持てていない生徒・保護者が一定数いることから継続して高校だけでは無く、学園全体の問題として対応する。

○生徒アンケート　■当てはまる　■やや当てはまる　■あまり当てはまらない　■当てはまらない

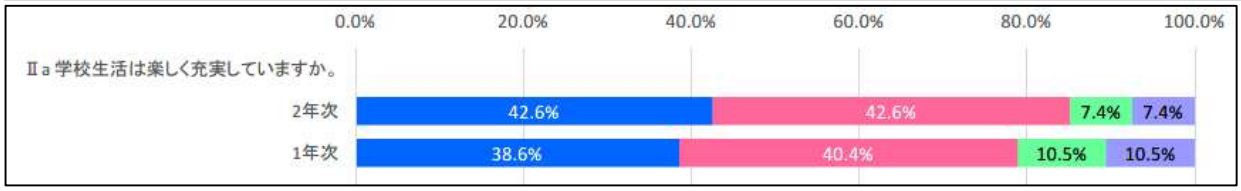
1年生（入学時比較：過去3年間）

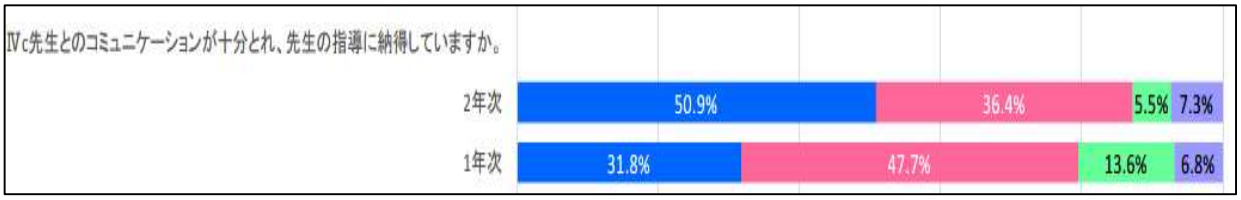






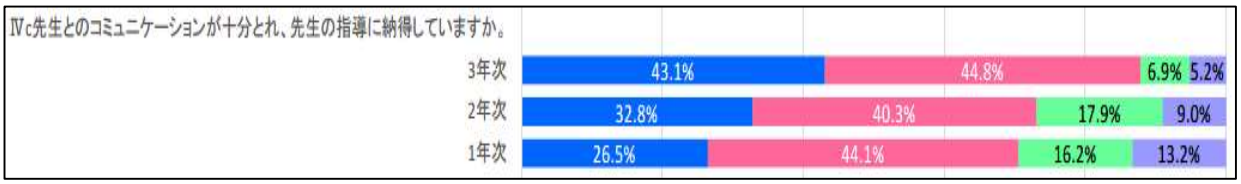
2年生（前年比較）

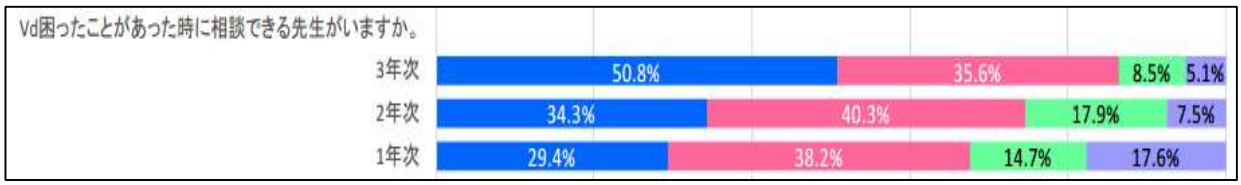




■当てはまる　■やや当てはまる　■あまり当てはまらない　■当てはまらない

3年生（経年比較）



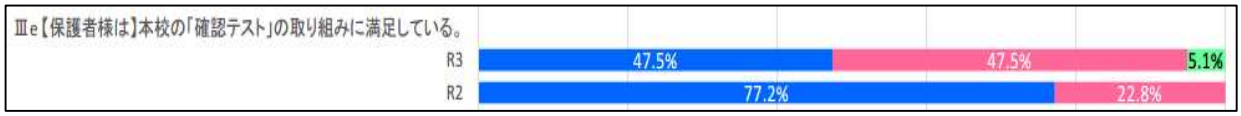


（2）学習体制・学習環境について

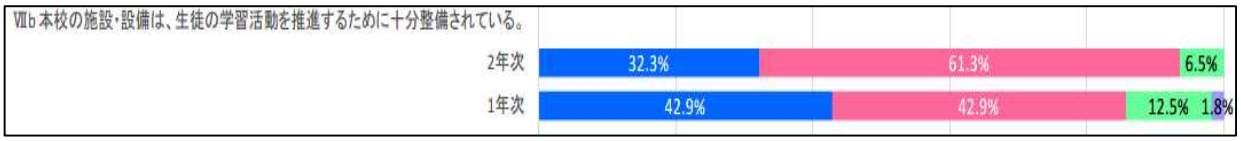
昨年度から基礎力向上の為、朝学・確認テストを取り入れ保護者からの評価はとても高い。放課後学習として特進コースは校内予備校、学習支援として進学コースは知正の杜。資格や受験科目のサポートとして知正塾の充実を図っているが、学年によって評価が分かれており、かつ、保護者からは内容の説明不足の指摘があることから、HP掲示や配布資料を増やし、生徒のニーズにあった内容を加え放課後学習の充実を進める。授業ではICT機器を利用した学習や課題では動画学習を取り入れ、ICT教育を充実させていることから、学習活動を推進する為の施設・設備については生徒・保護者とも満足度は高い理由の一つになっていると推察される。

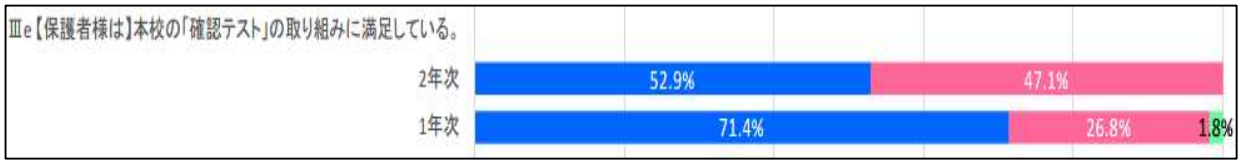
〇保護者アンケート　■当てはまる　■やや当てはまる　■あまり当てはまらない　■当てはまらない

1年生（入学時比較：過去2-3年間）

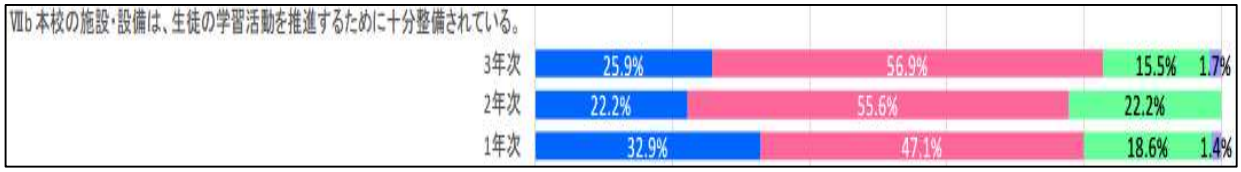


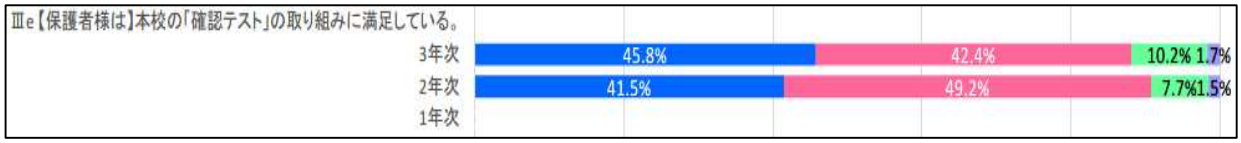
2年生（前年比較）





3年生（経年比較）



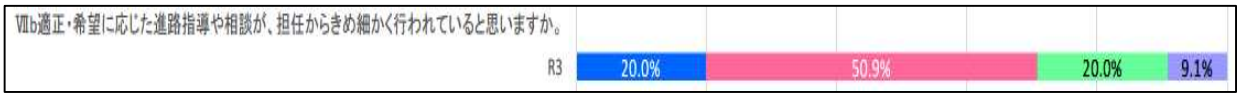


（3）進路指導

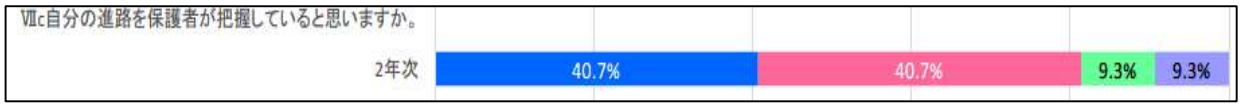
探究の時間において進路を考える時間を増やし、進路指導部と担任で連携を取り自分の進路を考えさせる時間を増やし対応を行った。進路保障と教育プログラムを一体化し課外学習については進路指導部が主体となり生徒にあった対応を丁寧に継続し進めている。

〇生徒アンケート

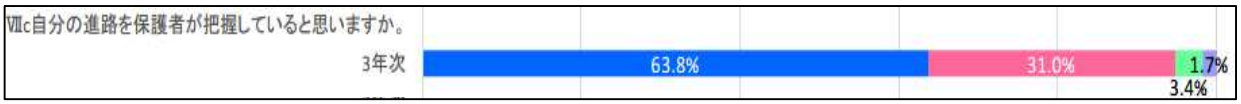
1年生



2年生



3年生



（4）生活指導

生徒の約9割が先生の指導に納得している評価をしている。保護者アンケートにおいても生活習慣や規則、マナーを身につけされる本校の取り組みについても満足度は高く、一方的な指導ではなく、本質を理解させ本人が納得するまで指導をしている結果であると推察される。教員とコミュニケーションが取れていないと感じている生徒や指導に納得していない生徒もいることから、不登校対応を含めた個別対応を重ねることで改善を進める。

〇保護者アンケート

1年生（入学時比較：過去2年間）

2年生（前年比較）

3年生（経年比較）

（5）全体

新型コロナウイルス感染症との共存・共生が求められる中、生活様式は大きく変わりその中で、学校・生徒・保護者の関係性も変化しているが、本校としてできることは何かを常に考え、学習環境、行事等、学校生活への影響を極力なくし適切に判断し対応しています。

募集停止に伴い、保護者の皆様はもとより生徒諸君も複雑な心境であることから、学園全体の課題として取り組みし、最終年度まで一人ひとり、向き合うことを約束していますので、検証を行っていく予定です。生徒、保護者アンケートについては既に学年・教科に共有しており、直ぐに対応している内容もありますが、継続的にモニタリングしながら学校運営を改善していきます。アンケート以外にも常に生徒の様子を気にかけ、報告・相談を行い、教職員一丸となって対応していきます。

4　学校関係者評価委員会からの評価結果について

2021（令和3）年12月8日に学校関係者評価委員会が開催され、下記の審議等がされた。

冒頭、西川校長より、募集停止の経緯説明がされ、学習環境や進路保障の維持について説明された。
資料に基づき、文部科学省のガイドラインに沿った「学校評価」について説明がされ、本校の学校評価委員会において決定された「学校評価」の進め方について説明がなされた。その「学校評価」に「学校関係者評価委員会」が関与する趣旨、関与方法について説明がされ、出席委員全員で共有された。

西川校長より、資料4に基づき、現在の本校の取組みに関し、具体的に説明された。募集停止の経緯及び保護者説明会の開催、アンケートの実施趣旨、その後の対応としてアンケートに対する回答文書の配布、個別対応したことについて説明され意見交換が行われた。

・町から生徒の姿が見えなくなるとさびしい、今後の方向性や地域活性化の対応について知りたい。
・デジタル社会に対応できる今までとは違った学校運営を期待している。
・学力保障や卒業までのサポート維持、閉校ではなく高校自体が無くならない休校措置であることに感謝している。
・卒業と同時に成人を迎えることについて意識させて欲しい。

事務局より、今年度の重点目標とその目標を設定した方法等が説明され、項目ごとの取組計画、取組状況、自己評価・達成状況及び、今後の改善方法について説明され、合わせて保護者・生徒アンケートの集計結果が説明された。その上で評価に関し、意見交換が行なわれた。

・問題解決は保護者を含めること、内面で抱えている問題に早い時点で対応して欲しい。

以上の意見をまとめて、「学校関係者評価」とすることが承認された。

学校関係者評価委員会委員名簿

松井　由香　育友会会長
駒井　卓子　育友会前会長
松田　卓也　蘭友会（同窓会）会長
小西 宗日出　桜井まちづくり株式会社代表取締役会長
植村　豊　学校法人冬木学園　法人事務局長・畿央大学総務部部長
西川　隆彰　関西中央高等学校　校長

5　校長の意見書

今年度、本校にとって最大の出来事は、次年度の生徒募集停止である。5月29日の理事会決定を受け、5月31日には教職員に、保護者と生徒には6月5日および7日に周知した。それ以降、生徒や保護者からの質問を受け1学期と2学期に文書で回答したり、野球部の保護者会と直接説明する機会をもったりした。回答文の内容は、1年生の生徒が卒業するまで、すべての生徒に対し最大限の教育を行うこと、コロナ禍にあっても行事を中止することなくできるだけ工夫して行うこと、大学進学などの進路保証を徹底して行うことなどであった。

今年度は、三密を避け、ソーシャルディスタンスをとり、マスク着用および手洗いや消毒の励行などのコロナ対策を講じたウイズコロナといわれる生活が日常となった。従って、全校集会や始業式などは一堂に集まることを避けるため放送で行ってきたが、2学期末に実施した奈良県警察の方による「SNSに関わる防犯講演会」、2学期終業式および3学期始業式はコロナ対策を講じメモリアルホールで実施できた。体育祭はスポーツ大会と合わせて10月1日に、文化祭は9月25日に実施できた。保護者対象の進路説明会は11月に、1、2年生徒対象の進路説明会は2月に実施した。このように今年度3年生は休校することなく無事卒業式を迎えることができた。その後2年生で1名陽性者が出たので、1、2年生対象に全校休校とした。休校期間は特進コース2日間、進学コースは4日間であった。このように行事はすべて工夫しながら実施する方針で臨み行えた。特筆すべきはコロナ禍の中、修学旅行が昨年度と同様に実施できたことにある。

修学旅行は当初沖縄県石垣島を計画していたが、沖縄での感染拡大を受け東北方面（11月14日～17日）に変更した。東北大震災における津波や原発事故により被害に遭われた語り部の方から壮絶な体験談を聞き、また被災地を見学する中で、命の大切さや被害を避けるための観点など、これからを生きる生徒たちにとって大変有意義な学習機会にもなった。
また、スパリゾートハワイアンズではプールで泳いだりスライダーですべったりして常夏の雰囲気を生徒たちは満喫していた。フラガールのショーに食い入るように観るとともに、生徒全員がフラガールの指導によりダンス体験ができたのは忘れ得ぬ思い出になったと思われる。「今回の修学旅行に満足していますか」の問いに92パーセントの生徒が満足している、「東北にまた行きたいと思いますか」の問いには94パーセントの生徒が行きたいと答えるなど全ての項目にわたって高評価であった。青春時代のよき思い出として心に刻まれたことと思う。一人ひとりのこれからの人生の糧になることを期待している。

学力をのばすために、正規の授業に加え、朝のHR前の「朝学」や放課後の取組として特進コースは「関中塾」を自教室で、進学コースは「知正の杜」や「知正塾」と称した学習支援プログラムを図書室で行っている。そのため、昨年度、図書室には個別の自習ブースを設け、エアコンも新調した。今年度からは特進コースの「関中塾」の中に3年生を対象として外部指導者による「校内予備校」を設けた。更には1年生の進学コース生を対象に「総合的な探究の時間」に次世代型教材を導入し、卒業時まで継続的に取り組むこととした。

本校では、スタディサプリを導入し、1年次から3年次までの生徒の学力向上を目指している。個々の生徒のデータを分析し、そのデータを生かした取り組みを行い進路指導に生かしている。英語力アップが課題であるので、今年度からスタディサプリイングリッシュも視聴できるようにした。

生徒会が中心となって「思いやりの心・マナーアップ運動」を展開し、生徒たちが、登下校時には校門一礼を行い、「元気な挨拶日本一」を励行している。また、美化委員が中心となってプランターに花を植える「花いっぱい運動」を展開している。本校では「建学の精神の唱和」を毎週月曜日の朝のHRで行っている。昨年度、「輝く道を切り開こう、己の夢をつかみとれ」という標語の垂れ幕を生徒会が作った。

若者らしくはつらつとしたさわやかな姿が、関西中央高校生としての誇りと魅力になっている。

初代理事長冬木智子先生が令和元年1月26日にお亡くなりになられた。

我々教職員一同は、次の世代を担う生徒たちに建学の精神をつなぎ、ひろめ、のばしていきたいと決意を新たにしている。「一人ひとりに寄り添う」、「できないことを、みんなの力で、できることに」を合言葉に教職員一同日々の教育活動に邁進している。